

享保雜錄

卷

12

7保3
2029



信濃の藩に... 沖村宮と云

沖村宮の御成敗... 御成敗の御成敗... 御成敗の御成敗...

寛政五年申二月...

御成敗の御成敗

沖村宮の御成敗... 御成敗の御成敗...

申官二...

沖村宮の御成敗... 御成敗の御成敗... 御成敗の御成敗...

沖村宮の御成敗... 御成敗の御成敗...

沖村宮の御成敗... 御成敗の御成敗... 御成敗の御成敗...

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

申す所の

と申す所を以て用ひて後夜を以て申す所は、
物言法を以て之の又後夜を以て、
申す所の

申す所の

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

大徳院様

後夜様

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

九日 西暦二月 卯辰辰方
百 卯
申す所の

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

他病家様隔てて夜者病うらむ夜者を以て同様くまや夜者病大を以ては

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

享保元年丙申八月廿日

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

古事記の事

古事記の事

古事記の事

古事記の事

古事記の事

美

古事記の事

古事記の事

古事記の事

古事記の事

美

古事記の事

古事記の事

古事記の事

古事記の事

享保二丁酉年正月

一正月八日 卯申 亥分 年

一 正月廿六日 卯申 亥分 年
一 正月廿七日 卯申 亥分 年
一 正月廿八日 卯申 亥分 年
一 正月廿九日 卯申 亥分 年
一 正月三十日 卯申 亥分 年

丁酉年正月

一 正月廿一日 卯申 亥分 年

一 正月廿二日 卯申 亥分 年

丁酉年正月

是

一 正月廿三日 卯申 亥分 年

一 正月廿四日 卯申 亥分 年

丁酉年正月

一 正月廿五日 卯申 亥分 年

一 正月廿六日 卯申 亥分 年

丁酉年正月

一 正月廿七日 卯申 亥分 年

丁酉年正月

丁酉年正月

一 正月廿八日 卯申 亥分 年

一 佐藤康振より出回知事へ
寺社別表の月切目録を以て
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ
佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ

一 佐藤康振より出回知事へ

一 細切の紙をとりて四つに割りて紙を貼る

一 四方の紙を貼るに便するに紙を貼るに便するに紙を貼る

一 四方の紙を貼るに便するに紙を貼るに便するに紙を貼る

丁酉年十一月

山崎氏の御書

差

白紙の裏に

沖美の御書

左の紙に右の紙を貼るに便するに紙を貼る

右の紙に左の紙を貼るに便するに紙を貼る

丁酉年十一月

山崎氏の御書

丁酉年十一月

山崎氏の御書

一 四方の紙を貼るに便するに紙を貼るに便するに紙を貼る

今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて

仕じし事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて

沖美の御書

左の紙に右の紙を貼るに便するに紙を貼る

右の紙に左の紙を貼るに便するに紙を貼る

丁酉年十一月

山崎氏の御書

丁酉年十一月

一 四方の紙を貼るに便するに紙を貼るに便するに紙を貼る

今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて

仕じし事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて今度又お申付申す事ありて

沖美の御書

左の紙に右の紙を貼るに便するに紙を貼る

右の紙に左の紙を貼るに便するに紙を貼る

丁酉年十一月

山崎氏の御書

一河内國... 諸人... 一... 日... 行...
...
...

...
...

河内國... 諸人... 一... 日... 行...
...
...

河内國... 諸人... 一... 日... 行...
...
...

...

河内

河内... 諸人...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

河内

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

江戸

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸

江戸

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

江戸

江戸

江戸

江戸

江戸 (江戸、江戸、江戸)

田一方の法書所向沙城諸事、角之限り、又改り生(2)物とて

田方一、
布師、自其相解、方之、下、南、北、

是、
其、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一、
中、

一 此石を以て... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...

一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...

一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...
 一 抱石... 抱石... 抱石... 抱石...

是

上

其國を治むる者ハ 其國の政令ヲ 必ズ其國の
 土俗に從ハシメテ 治メヨトシク 其國の
 人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク

一 治國の要ニシテ

其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク

一 治國の要ニシテ

其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク

一 治國の要ニシテ

其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク
 其國の人心に適合スル 法ヲ用ヘシメ 治メヨトシク

一 張と紙ハ之原九五年 首尾九五別多ク 然令此レノミトナキニ
 自ら致事ナラシメ 宛カオトシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 恨有ル致ト云フクニ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

一 合カホクノ 後ノミトナキニ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

一日 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ
 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ 宛カシテ

一、
一、
一、
一、

The ...
L ...
P ...
F ...
F ...

一、

...

一、

一、
一、
一、

...

一 〇 〇 〇

此代名は...
...

と...
...

一 〇 〇

此代名は...
...

...

一 〇 〇

本より古...
...

一 〇 〇

一 〇 〇

此代名は...
...

一 〇 〇

此代名は...
...

一 〇 〇

此代名は...
...

糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

一 糸指の向の目録

素の素の... 元
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

...
 ...
 ...

... 元

...
 ...
 ...
 ...
 ...

... 元

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...

...
 ...
 ...
 ...
 ...

...

一今更何事乎守口法の中あしむ武の三合月
あふすは任其法くし初日中に修行日付る日
と云ふと云ひしは片渾括向の擧式に就て是れ
り於て任其むと云ふ事なり

一正法の中より法を成るれば法事と云ふなり

五
一

二四七

昔々毎日坐して念ふことありて其の法
事にて是れより上なるは念ふ事にて其の法
事にて念ふことありて其の法事にて念ふ事

二四八

即ち念ふことありて其の法事にて念ふ事
事にて念ふことありて其の法事にて念ふ事

二四九

念ふことありて其の法事にて念ふ事
念ふことありて其の法事にて念ふ事

二五〇

念ふことありて其の法事にて念ふ事
念ふことありて其の法事にて念ふ事

法云

念ふことありて其の法事にて念ふ事

二五一

念ふことありて其の法事にて念ふ事

法云

念ふことありて其の法事にて念ふ事

念ふことありて其の法事にて念ふ事

念ふことありて其の法事にて念ふ事



一 江の思ぬ 松雲 小橋の石
一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 望月の思ぬ 望月雲 望月雲

一 伴の思ぬ 伴雲 伴雲
一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 水戸の思ぬ 水戸雲 水戸雲
一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

一 舟の思ぬ 舟雲 舟雲

贊儀官
係伯正

周師

供贊

口

口

口

常童子

六

留里用之子
長尾重子

伊長路里之子
源河星之子

年次記書上

國書記書上

陽文記書上

前田記書上

也堂記書上

所記記書上

新屋記書上

石中根記書上

家記書上

掌箱史

儀贊

云新記書上

前川記書上

武村記書上

上原記書上

江戶記書上

河原記書上

照全記書上

之志記書上

伊中記書上
山手系里之子

高尾記書上
真名里之子

合塩球人九十八人

右系
延名六十八人

白旗の百八

中山之子

白旗の百八

延名之子

大正新築の百八

大正新築の百八

白旗の百八

延名の子

延名の子

延名の子

一國三日月

水戸中將殿

臣之儀申上候

字部封書

臣に候下候儀候

一ツツ

御座候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

一ツツ

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

一ツツ

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

一ツツ

御事申上候事

御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事、御事申上候事

一ツツ

一 吉野藩に...

一 中...

一 一ノ月...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

御奉行...

一 一ノ月...

一 吉野藩...



二ノヤ

けむ申伸... 別後か有... けむの... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...

一... けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...

一... けむ...

一... けむ...

けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...

二ノヤ

けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...
けむ... けむ... けむ...

年々老るるのそらさるるの世に
ちよ色もあはれむるの情

三

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

一

あはれむるの情もあはれむるの情

一

あはれむるの情もあはれむるの情

一

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

一

三

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

あはれむるの情もあはれむるの情

二六
一六二

是

藏書知泉博博 留日名 冊及 指テ 五氏

之 名 在 留 日 名 冊 及 指 テ 五 氏

之 名 在 留 日 名 冊 及 指 テ 五 氏

之 名 在 留 日 名 冊 及 指 テ 五 氏

一 月 日 あり 是 物 也

書 名 一 冊 あり

留 日 名 冊

留 日 名 冊

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

一 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

留 日 名 冊 あり

法華經の義を説く。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。法華の旨は、一切衆生の成佛の道を示す。

格別... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

Vertical text on the left margin of the right page.

特別の... (Vertical text on the right edge of the right page)

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, covering the right page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, covering the left page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, covering the left page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, covering the left page.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a journal entry, covering the left page.

之なるを... ありては...

一、白布... 二、...

...

...

門幅

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

ナリシテ、新編國之... 正役

白州支那 正役

沼田支那 正役

沼田支那 判事

沼田支那 判事

沼田支那 判事

沼田支那 判事

沼田支那 判事

沼田支那 判事

沼田支那 判事

一 新編國之...

一 沼田支那 判事

免

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 沼田支那 判事

一 徳州の川
一 徳州の川
一 徳州の川
一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

一 徳州の川

三書

皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく

一丁一市

一
皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく

皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく
皇朝書院
湯川
有田
とく

一、
...

...

...

...

...

...

先 享保二年

...

...

...

...

...

ついでに...
一 今方...
一 別...
一 一...

一 前...
一 治...
一 一...

一 新...
一 一...

一 一...
一 一...

一 一...
一 一...

一 一...
一 一...

七月

一 一...
一 一...

七月

一 一...
一 一...

中...
 一 印...
 一 四...
 一 火...
 一 事...

一 一...
 一 一...

一 一...
 一 一...

一 一...
 一 一...

十月十日 木下...

一 一...
 一 一...

信を流す樹ありて... 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

舟に乗りて... 舟に乗りて...

一 舟に乗りて... 舟に乗りて... 舟に乗りて...

舟に乗りて... 舟に乗りて...

この道に及ぶ者少くはは指す

あはれにその心

子十

あはれにその心

一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す

あはれにその心

あはれにその心

一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す

一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す

子十

一 此の道に及ぶ者少くはは指す

あはれにその心

あはれにその心

一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す
一 此の道に及ぶ者少くはは指す

一 此の道に及ぶ者少くはは指す

河津よりわたりてくればまことにさうりやうの海にさかすま
りし所をたゞとてくれば、さうりやうの海にありし所しゆゆりやう

一、舟より下りては、はなはたの舟より下りて

一、舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

一、舟より下りては、はなはたの舟より下りて

+

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

舟より下りては、はなはたの舟より下りて

一
 のあうり
 のあうり
 一
 のあうり

一
 のあうり
 のあうり

一
 のあうり
 のあうり

一
 のあうり
 のあうり

一
 のあうり
 のあうり
 一
 のあうり

Handwritten text in a cursive style, possibly a signature or a short note, located at the top of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the upper middle section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the middle section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower middle section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower section of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower section of the right page.

Small handwritten mark or character at the bottom of the right page.

Handwritten text in a cursive style, located in the lower section of the left page.

Small handwritten mark or character at the bottom of the left page.

ちんちん池打に依りて本年、建武元年に於て、
年々九割は、秋の建武元年の如し

三

唯今と治世打捕出を以て、今も治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、

世に...

一、治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、

世に...

三

一、治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、

世に...

三

一、治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、
治世打捕出を捕出初らむれば、治世國政、

廿四日 九ノ...

美

一 舊曆甲子之物...

一 神志...

但...

一 狂言...

但...

一 右...

但...

廿四日...

一 右...

一 右...

但...

廿四日

一 右...

一 右...

一 右...

七月...

但...

廿四日

一 上野...

一 上野...

一 上野...

廿四日

一 右...

一 右...

一 右...

一 右...

但...

廿四日

廿四日

一 右...

一 右...

一 右...

美又とらふる書出たれば紙を介し紙面あらす。其後何處中
うりやちや他をさるるを別中へ紙田一方向のち書や紙の
物やの事らうけし書やあら。その事やありまをわらひし書や
出。おれ紙下らうと書。書中らう事やあら下らし書や

廿六月 廿七日 廿八日

一 法國紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。その書やあらす
紙のち書や他を流れる紙田一方向のち書やあら。其後何處中
何處か紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。その書やあらす

一 百何人人社人男女傍に木をわらふ。其後何處中
けりやちや他をさるるを別中へ紙田一方向のち書やあら。其
わらふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。
一人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。

一 抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中
中紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ
何處か紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ

一 抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ

一 抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ

一 抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ
抄紙のち紙の田畑へ何處か人教をふ。其後何處中何處か紙のち紙の田畑へ

夫又たその度書とあるは所から
 うりやちや他をさるる五別中
 精女の事とて一は事とて一は
 あり あり あり あり あり

廿六月 十日 卯 申

一 法園の如く村の田畑の所
 解ちもこの度とて所から
 可分け度とて所から
 物産の所分の度とて

一 百姓の人社人界の傍に

此の度とて 此の度とて 此の度とて

此の度とて 此の度とて 此の度とて
 廿六月 十日 卯 申

美

一 鷹番の度とて 此の度とて 此の度とて
 此の度とて 此の度とて 此の度とて
 廿七月

一 沖成の度とて 此の度とて 此の度とて
 此の度とて 此の度とて 此の度とて
 廿八月

一 男の度とて 此の度とて 此の度とて
 此の度とて 此の度とて 此の度とて
 廿九月

一 江戸の馬場をめぐりては、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

世に聞かぬ事ありては、
世に聞かぬ事ありては、

一 江戸の馬場には、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

世に聞かぬ事ありては、

一 江戸の馬場には、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

世に聞かぬ事ありては、

一 江戸の馬場には、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

世に聞かぬ事ありては、

追記

一 江戸の馬場には、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

追記

一 江戸の馬場には、昔は馬の競走が盛んで、人々の集まる所であつた。今は馬の競走はなくなり、馬の飼育や馬具の製造が盛んで、馬の文化が栄えている。

七十月

遊子

一 出陣の長脇刀を帯びて去るは後士多縁の格と云ふ遊子向の長脇刀
供と云ふは遊子の退去を兼てせしむるなり

但し遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去
向の格と云ふは遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

四様目

一 出陣の長脇刀を帯びて去るは後士多縁の格と云ふ遊子向の長脇刀

但し遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去
向の格と云ふは遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

廿一月

遊子

一 出陣の長脇刀を帯びて去るは後士多縁の格と云ふ遊子向の長脇刀

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

廿一月

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

一 遊子の退去は遊子の退去向の格と云ふは遊子の退去

有...
...
...
...
...
...
...
...

中二頁

三

- 一 二月十日...
...
- 一 右...
...
- 一 尚...
...

...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...

五

享保六世年

一

昔後所迄下貴大上如只年討貴大上事討迄

一

昔小の臣等討迄

昔大の臣等討迄

昔中の臣等討迄

昔下の臣等討迄

美

昔中一討迄迄の臣等討迄

昔下の臣等討迄

一

之

昔中一討迄迄の臣等討迄

昔下の臣等討迄

昔上の臣等討迄

昔中の臣等討迄

一

大

一

一

昔中一討迄迄の臣等討迄

昔下の臣等討迄

昔上の臣等討迄

昔中の臣等討迄

心

のりきり
ふりかへ
こゝろ
あはれ

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

八

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに

あはれはあはれに
あはれはあはれに
あはれはあはれに

一 年と本はた可々その時を先主と分りた大由大由と
物とを何れに死にす年月日細く事々記し置て
後世の人のためとて一人の私を疑はざるや
九人の子に

一 公家ももつては上は下は下は上
のりては別れざるをわづらふ
三つは此を以て

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

一 一ツと別れ
九つと別れ
二つと別れ

此書は只四書の中のものに過ぎぬと云ふは
此書は只四書の中のものに過ぎぬと云ふは
此書は只四書の中のものに過ぎぬと云ふは

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

漢高祖本紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

漢高祖本紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

一 漢書 卷之九 帝紀 漢高祖本紀 漢高祖本紀

二、此の...
三、此の...
四、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...
四、此の...
五、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...

一、此の...
二、此の...
三、此の...
四、此の...
五、此の...
六、此の...
七、此の...
八、此の...
九、此の...
十、此の...

先解
...

一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり

湯治の泉

湯治の泉

湯治

一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり
一 湯治の泉の源を尋ねりて得たるものなり

湯治の泉

湯治の泉

湯治の泉

方取是知終終 中居 中居 中居 中居 中居

一 此は、武官に集りしは終るに由りてありしとあり

一 此は、この身は年角の功ありしを重んずる事なり

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

一 此は、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては、大徳ありては

人との事... 沖世... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四... 二十五... 二十六... 二十七... 二十八... 二十九... 三十... 三十一... 三十二... 三十三... 三十四... 三十五... 三十六... 三十七... 三十八... 三十九... 四十... 四十一... 四十二... 四十三... 四十四... 四十五... 四十六... 四十七... 四十八... 四十九... 五十... 五十一... 五十二... 五十三... 五十四... 五十五... 五十六... 五十七... 五十八... 五十九... 六十... 六十一... 六十二... 六十三... 六十四... 六十五... 六十六... 六十七... 六十八... 六十九... 七十... 七十一... 七十二... 七十三... 七十四... 七十五... 七十六... 七十七... 七十八... 七十九... 八十... 八十一... 八十二... 八十三... 八十四... 八十五... 八十六... 八十七... 八十八... 八十九... 九十... 九十一... 九十二... 九十三... 九十四... 九十五... 九十六... 九十七... 九十八... 九十九... 一百...

りぬにいとほし
まほしきしりぬにいとほし

一節ありしに
法りしに
借方
抄年しに

中制
里にねまに
山にねまに

一火に
白の
新
二二
左

白の
新
二二
左

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

二冬
三

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

このころ

石壁地へ移す向くは...
うらあけけけとわね...
かやま...
かやま...
かやま...

と...
と...

二...
二...

りりり
りりり
りりり

た...
た...

